

Q21

保護者の同意に基づく 医療機関と連携した支援は？

まずは
ここから



- 本人，保護者が安心感をもてることを最優先します。
- 自律教育コーディネーターを窓口にして組織で動きます。

興奮すると友だちとトラブルになりやすいケンさんへ，自律教育コーディネーターが窓口になって行った支援について紹介します。

コーディネーター

コーディネート

担任

本人・保護者

医療機関

- 1 校内委員会（校長，教頭，担任，T・T教諭）で検討



- 2 保護者との今後の方向について懇談



- 3 心理検査の実施と保護者への結果説明



- 4 相談機関への情報提供の準備



- 5 支援の方針の決定と全校教職員による取組

自律教育コーディネーターは，校内委員会でケンさんへの対応を検討しました。心理検査の実施と医療機関への受診により，支援の方針を明確にしていけることになりました。

保護者への説明は，自律教育コーディネーターが行いました。本人及び保護者の不安に対して，必要な情報を伝え，疑問には誠実に答えていきました。保護者は受診を決意しました。

自律教育コーディネーターは，保護者の同意の下，心理検査も行いました。結果については，優れているところとそれを生かした周囲の者のかかわり方を中心に説明を行い，保護者に安心してもらいました。

受診にあたっては，自律教育コーディネーターが医療機関との連絡・調整を行うとともに，医療機関への資料提供を行いました。初診時には，担任に付添いを依頼しました。

医療機関からの情報を基にして，ケンさんに合った支援方法が検討され，実施されました。

ケンさんは，興奮状態が減少し，落ち着いた生活を送るようになってきました。



【キーポイント】 医療機関との連携は，保護者や本人の不安感を取り除き，十分な説明を行った上で進めていくことが大切です。